

第 2 回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in 大石田町

- 開催日時 平成 24 年 7 月 12 日 (木) 13:30 ~15:30
- 開催場所 大石田町役場 大会議室
- 参加者 約 150 名

< 質疑項目 >

- 1 県民の精神的豊かさの充実を図るための施策について
- 2 子育て支援施策の充実について
- 3 寒冷地における次世代作物の開発、促進について
- 4 子どもたちへ伝えたい地域で暮らす魅力やそのための取組みについて
- 5 地域の農産物を活用した加工品等の開発について
- 6 旧山形県立最北高等技術専門学校寄宿舎について
- 7 今宿地区の流雪溝事業について
- 8 大石田町鷹巣地区の信号機の撤去反対について
- 9 消費税増税反対について
- 10 駒籠地区の流雪溝の排雪の改善要望について
- 11 減反地などにおけるエタノールの原料となるとうもろこしの栽培について
- 12 町内産そばの水分規格について
- 13 高齢者施設の待機者解消に向けた取組みについて

【 1 県民の精神的豊かさの充実を図るための施策について 】

★吉村知事のあったかい県政についての質問と、集落で体験しました県職員の対応についての紹介と、お礼を申し上げたいと思います。

県道村山大石田線の側溝を利用して、冬期間 2 km ほど先から水をもってきて、その側溝に溝を造成し、流雪溝として利用しています。

ところが、今年は 4 5 年ぶりの大雪でもあり、雪づまりで水があふれ、農家の方が秋に丹精込めてつくっている生花畑が水浸しになってしまいました。役場に電話したところ、すぐ、県の村山総合支庁の職員の方と掘削調査の係の方がまいりまして、現地調査をした結果、60 m ほどかさ上げをしなければならないということで、県の責任で秋までに実施するという温かい対応をしていただきました。

私たちの思っていることをきちんと踏まえて、しかも、克雪というのは県の重要な課題であるということも、職員の方はきっちりおさえて対応してくれました。まさに、吉村知事のあったかい県政を実践し、職員の間々まで染み通っているということに、私は感動いたしました。

県民の参加によって、県政が順調に進んでおり、県民から信頼されているのではないかと、つくづくと思います。

次に、若干、抽象的になりますが、県民一人ひとりが、現在住んでいる地域や山形県に自信と誇りを持つ、いわゆる幸福人口を増やす施策について考えたいと思います。

私も役場生活で、長く企画部門で地域づくりに関わってきましたし、今も来迎寺地区で区長をや

っております。

考えてみますと、私たちの地域づくりというのは、やはり高度成長時代だということもあって、豊かさの追求、あるいは利便性の追求であったのではないかと思います。

従ってどちらかという、地域住民も自分が、今、住んでいるところをプラス思考ではなく、「雪、降っからなあ」、「働き手がないからなあ」などマイナス思考で考えてしまうように思います。

しかし、隣の芝生を見て嘆いていてもはじまりません。自分の住んでいる地域の良いところを積極的に発見し、磨き再生し、自信と誇りを持つ。そういう内面的、精神的な豊かさの施策が、これから大事な時代ではないかと思います。

11月にブータンの若い国王夫妻が来日しましたが、ブータンでは、人々の幸せは、物がたくさんあるからではないと言っております。

さらに知事さんが新聞でおっしゃったように、山形県は非常にいいところであり、例えば、今回の3.11の大震災の際にも、四方が山に囲まれているから放射能汚染も少ない。全くその通りだと思います。こうした点からしますと、山形県はだいぶ住みよいところだと思います。また、法政大学で47都道府県の幸福度を調査した結果、福井県が一番で、山形県は19番目と大変いい順位にあります。こうした点からも、山形県は素晴らしい県であると思います。

知事さんは、精神的な豊かさの充実のための施策、幸福人口が増加する施策を既に実施していると思いますが、幸福度というものを施策の中に据える時代に来ているのではないかと思いますので、知事さんの考え方、コメントをいただければと思います。

(知事)

はい、大変ありがとうございました。ただ今、お褒めの言葉を賜りましたが、私1人が褒められたわけではなく、山形県全体が褒められたのかな、山形県民みんなが、本当に感謝をされたのかなと思っております。

県庁の職員も一生懸命働いておりますが、県民の皆さま、特に市町村、関係団体の皆さま、ボランティアの方々、本当にいろいろなことをしてくださいました。それだからこそ、今年の5月に宮城県知事と福島県知事が山形県庁においでになり、その際「山形県ありがとう」と言ってくださいました。感謝状もいただきました。これは県庁だけがもらったものではございませんので、県庁のロビーに飾らせていただいております。県庁にお越しの際にはぜひ、ご覧になっていただければと思います。

2点目でございますが、ブータンでは国民総幸福度ということを行っておりますが、法政大学のご紹介もございましたが、山形県は19位ということで「良い方だ」とおっしゃいましたが、私は、「もっと上位だろう、5番目ぐらいじゃないか」と思っていたものですから、「19位というのはおかしいのではないか」と思ってるくらいでございます。

山形県は素晴らしいところだと思っております。何といたっても県民性が温かい。これは山形に来てみないと分からないし、来てみて初めて分かることでありまして、大震災から1年4ヵ月ぐらいが経過しておりますが、未だに本県内には約1万3,000人の方々が避難しておられます。避難しておられる方々と何回かお話をしましたが、「山形県民は本当に親切だね。来てみて初めて分かった。」これは、お世辞ではないと思っております。人間らしく、心の豊かさをもって生活している

ところなのかなと思っています。

ただ、おっしゃるように、特に戦後、高度経済成長時代で、物の豊かさというものを追求してきました。だから物が豊かになることがイコール幸せと思われがちで、何でもお金で幸せを計りがちだったのではないかと思います。21世紀は心の時代とも言われておりまして、心の豊かさを忘れてきたのではないかとされていることも、当たっているなあと思っています。

山形県のことを考えて言いますと、3世代同居率が日本一です。家族が多いと苦勞する面もあるとは思いますが、介護も子育ても助け合いながら生活していくというのは、もっとも人間的に暮らしていける形ではないかと思っています。

また、雪が多いと、お年を召した方々だけではなかなか暮らせない。障がい者の方だけではなかなか暮らすのは大変だと思います。やはり多くの方々、若い人と一緒になって暮らすことで、雪の時期を過ごすことができますし、助け合いながら生きていかなければならない。雪国というのはそういう社会だと思っています。そこが都会と違うところだと思っています。

昨年の大震災で「絆」というものが注目されたと思っています。夫婦、親子、家族、そういった人と人との絆が本当に大事なんだということが、国内外に発信されたと思います。東北地方は、こうした絆社会が未だに残っていると再認識されたと思います。見えないものを大事にする。そこがやはりひとつのポイントではないかと思っています。

地域に誇りを持つといっても、何をすればよいのかということですが、やはり身近な人たちに対する感謝の気持ちや、先人、ご先祖様、そういった方々が残してくれた伝統や文化、知恵など、そうしたものを大切に受け継いで、次の世代に伝えていく。そういったことを今こそ捉え直して、しっかりやっていくべきではないかと思っています。

私たちは物の豊かさに慣れすぎてしまい、今すぐ昔の生活に戻るということはできないわけですね。便利さも追求しながらではありますが、幸せ、喜びそういうものを感じるのは、心の豊かさというものが、大きいのではないかという気がしておりますので、もう一度大事なものは何なのか、幸福とは何なのかということ、皆さんと一緒に考え、捉え直しながらやっていきたい、未来へ伝えていきたいと思っています。

一例を申し上げますと、私は就任してから「山形の宝」事業というものに取り組んでおります。先人の方が残してくださった伝統的なお祭りや、文化、行事、物づくり、そういったものを県民の皆さんと一緒に再発見し、しっかり伝えていく。それでこそ、その地域に誇りと愛着を持つ人間を育てていくことができると考えておりますので、これからも、県民の皆さんお一人お一人の力添えを賜りながら、一緒になって心豊かに暮らしていける地域社会というものを一緒になって作っていきたいと思っています。

【2 子育て支援施策の充実について】

★私たち大石田町更生保護女性会では、大石田町の老人ホームの洗濯物たたみや、大石田駅と北大石田駅での青少年健全育成のためのあいさつ運動、7月は「社会を明るくする運動」ということで、犯罪や非行のない町づくりのために活動を展開しているところです。

また、昨年から0歳から2歳までの子どもたちを預かっている、「子育て支援ぞうさんルーム」のお手伝いをさせていただいております。

月に6回あるのですが、その中の3回を老人いこいの家で行っております。このうち年間36回を当会が担当いたしまして、大石田保育園の保育士さん2名と一緒に、ふれあいを大事にしながら活動しているところです。しかしながら、老人いこいの家ですのおもちゃなどがほとんどなく、大石田保育園から持ち寄ったささやかなおもちゃで子どもたちを遊ばせていました。

今年になりまして、子育て支援地域活動モデル地区ということで、山形県更生保護女性連盟から助成金をいただきまして、たくさんおもちゃを買うことができました。

今年1年だけのモデル地区になりますが、今後も子育て支援に取り組んでいきたいと思っています。県からも予算がついているのだそうですが、ほんのささやかな金額だとお伺いしております。もう少し、予算を増やしていただければ子どもたちへの支援が豊かになるのではないかと考えているところです。

また、連れてくる子どもたちの保護者は、大抵がお母さん又はおばあちゃんです。お父さんやおじいちゃんほとんど来ません。最近、育児を担当する男性を全国的に「イクメン」と呼んでいるのだそうですが、イクメンがしやすい職場づくりを県で考えていただけると、もっとたくさんのお父さんたちが子どもたちと関われるのではないかと考えているところです。職場等への働きかけをよろしくお願いします。

子どもを安心して産み育てられる社会づくりを、ぜひ、知事さんをお願いしたいと思います。

それから子育て支援センターというものがあるのだそうですが、もし、県で子育て支援センターを作る予定がありましたら、ぜひ大石田町につくっていただきたいと思っております。

(知事)

日頃から子育て支援の応援をいただきまして、心から感謝を申し上げます。

「イクメン」という言葉が出てまいりましたが、育児を積極的に進んで行う男性のことを言っておりますが、平成23年度から「やまがたイクメン応援プロジェクト推進事業」というものを行っております。

具体的に申し上げますと、男性が育児休業を取得した場合に、奨励金を支給いたします。また、お父さんの子育て参加を促すセミナーや、パパスクール、ワークショップなどを開催しております。

しかし、大震災の影響もあったのかもしれませんが、平成23年度はあまり進みませんでした。男性が職場で育児休暇を取りにくいといいますが、一朝一夕に進むようなことではないんだなということで、現在、課題を検証しておりますが、これからも引き続きやっていきたいと思っております。

大石田では、お父さんがお子さんの送り迎えになかなか見えないというお話がありましたが、山形市内では、朝、男性が自転車にお子さんを乗せて幼稚園や保育園に送っていく姿がようやく見られるようになってきましたね。少しずつそういう方向に向かっているなということは実感しております。

お母さん1人だけで育児をするということは、大変なことでありますし、家族全員、社会全体で応援するという気風が、やはり大事だと思っております。

若いお父さんたちや独身の方でも、育児に参加したいと思っている方はとても多いと聞いておりますので、そういった方々を応援する手立ては必要かなと思っています。まだまだではあります

が、しっかりやっていきたいと思っています。

それから、ぞうさんルームにおいて、0歳から2歳までのお子さんを預かっていただいているということで、本当にありがとうございます。子育て中の親子、特に親御さんが、気軽に集まって子どもたちを遊ばせながら、子育ての不安や悩みなどを話し合える場所があるということは、地域の子育て支援として欠かせないものではないかと思っております。大変重要な役割を果たしていると思っております。

運営に対しては、従来は国、県が市町村に対し支援していたのですが、平成22年度から国による支援に一本化されておりまして、県といたしましては、地域子育て支援拠点施設の職員を対象にした研修会を開催する予定ですので、ご活用いただければと思っております。

今後とも育児不安の解消などに向けて、引き続き、しっかり取り組んでいきたいと思っております。子育て支援センターのお話も出ましたが、村山総合支庁より補足説明をお願いいたします。

(村山総合支庁 保健福祉環境部長)

私から、イクメンの取組みや子育て支援センターについて若干、お話をさせていただきます。

県では、男性の育児参加が非常に大切だということで、昨年度から「イクメン応援プロジェクト」として、男性が育児休業を取得した場合への補助金制度を創設しております。

あわせて、先ほど知事からお話がありました、パパスクール、セミナー等を開催して、男性がどんな形で子どもと関わったらいいのかというようなことも、あわせて学べるようなものを行っております。

また、お話のありました、子育て支援センターですが、大石田保育園において「ぞうさんルーム」ということで行っておられると思いますが、それがまさに子育て支援センターでございまして、国からの補助金が出ているという形になっております。

【3 寒冷地における次世代作物の開発、促進について】

★今年の冬は非常に大雪でした。その中で、消雪制御盤操作員の要望により、消雪時間を少し早めてくれないかという要望がありました。すぐに町と連絡し合いながら、村山総合支庁北庁舎の道路計画課の方に相談したところ、すぐに取り組んでくれました。東北電力との契約等もあるので、少し時間が欲しいということで、結局13日後に解決しましたが、その間、「経過はこうなっていますよ」、「もう少しお待ちください」と経過をきちんと説明してくれまして、私は凄く感心しまして、解決後すぐに御礼の電話を差し上げました。

2点目は、消雪道路の場合、いくら解けなくて雪が張り出してきても、なかなか雪を排除するようなことは行ってもらえませんでした。そうしますと通学路がふさがって、子どもたちが非常に危ないため、これまで自分たちの力でやっておりました。

しかし、昨年及び今年の雪はそれもできないぐらい多かったので、県に要望したところ、すぐに取り組んでいただきました。これも感謝したいと思います。

それから私の住んでいるところは、大字海谷というところですが、県道305号大石田名木沢線と県道123号荻袋大浦線という二つの県道が重なっておりますが、その交差点のところのマンホールのふたが飛んでなくなっており、県に電話したら、すぐ飛んで来てくれました。

すぐに対応してくれるこの素晴らしさ。また、いろいろな関係で遅くなった場合は、途中経過をきちんと報告してくれるということは、なかなかできそうではないことです。吉村知事の県政を、一般職員の方も皆、理解してやっておられるのだなと思っております。

2点目は要望として、知事さんもお分かりのとおり、当地は米、すいか、そば、芋などいろいろありますが、私は、昭和50年当時から、「農業はこれでいいんだろうか」といつも思っておりました。

というのは、次の世代の作物を研究、開発しないと、徐々に、すいかや米だけでは難しくなってくるのではないかと考えておりました。

知事さんは県政運営の基本的な考え方の三番目に、農業再生についてと提示してありますが、これを見た時に、寒冷地における次世代作物の開発と促進等のプロジェクトチームを、農業の再生事業のところに組み入れてもらえないだろうかというのが私の要望です。

次の作物を何にするかというのは、本来的には自分たちが考え、実行していくのが当然なのですが、高齢化が進み、すいかを作る農家も厳しくなり、放置された農地が非常に多くなってきております。世界の作物の傾向や都会における食材で、どのようなものが使われているか等を調査して、山形県では、こういったものを作ったらどうかというようなことを、山形県をあげてやっていただけないだろうか。

本来的には国が考えるのですが、国とすれば、それぞれ地域資源がありますから、そうはいかないと思います。山形県としては、特に農業を主体にする産業が多いと思いますので、一步前を見た農業施策として、寒冷地における次世代作物の開発および促進等のプロジェクトチームをつくって、少し時間がかかっても考えていただきたいというのが要望です。よろしく願いいたします。

(知事)

本当にご苦労様でございます。

前段、県庁の職員が褒められましてありがとうございます。

いろいろなことに対して、市町村と一緒にあって、できる限りの対応を行っていきたいと思っております。

後段のほうですが、大変大きな視点でお話をされたと思います。山形県は、寒冷地でございますので、寒冷地における次世代作物の開発、促進ということは、大事なことだと思っております。

地域が元気になるのはとても大事だと思っております。私は当初から5本柱のうちの一つを農林水産業の再生と掲げてございます。

県内各地域で、その地域の資源を生かして暮らしていけるようにするという事は、とっても大事だと思っております。地域が元気になってこそ県全体が元気になります。

一例を申し上げますと、県が12年かけて開発した水稲品種「つや姫」があります。

これまでも戦略的な生産、販売の取組みを行ってきまして、ようやく全国的に知名度があがってきております。「日本一うまい米だ」と私は言うておりました。おいしい競争というのは、いいことだと思っております。

それから、寒冷地向け品種ということで、山形県は以前から取り組んでおりました。これまでも、水稲では「里のゆき」というものがございまして、夏秋イチゴの「サマーティアラ」という県のオリ

ジナルの作物があります。それから「春音（はるおと）」というふきのとうや、トルコキキョウなど県でオリジナルに開発したのも結構あるんです。地方で開発するということは、その地方の強みだと思っています。

おととい石川県に行ってきたのですが、石川県の谷本知事さんがおっしゃったのは、14年かけてルビーロマンという赤い大粒のブドウをつくってございまして、去年1房50万円で売れたとおっしゃっていました。生産技術がまだまだ安定してないということでありましたが、各県とも競い合って、自分の県ではどういうものが望ましいのかなど、気候もあわせて一生懸命やっております。山形県としてもしっかり力を入れていきたいと思っています。

こうしたことが、県の強み、地域の強みになっていきますのでよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

【4 子どもたちへ伝えたい地域で暮らす魅力やそのための取組みについて】

★大石田町商工会青年部は、40歳以下の地元企業の経営者、後継者の集まりでございまして、自分たちの商売を強くするということはもちろんですが、地域活性化を目指した活動を行っている団体です。

地元で暮らし、子育てをし、商売をしている仲間の集まりでございまして、次世代を担う子どもたちのための事業がしたいと昨年度考えまして、小・中学生向け職業体験事業、「キッズタウン大石田」という事業を、昨年開催させていただきました。これは、県の提案公募型事業という補助金に応募させていただいて、50万円をいただきまして実施いたしました。

職業体験事業ですので、自動車販売、理髪業、農家の方々など、いろいろな分野の職業の方々を集めまして、子どもたちに職場体験をしてもらい、将来の夢や自分がどんな仕事がしたいかなどを考える一助にさせていただきたいということが一つと、地域で私たちが生活している魅力を伝えたいという思いがあって行った事業です。

これには、思いを同じくする農協青年部の方々や役場の職員の有志の方からもお手伝いをいただき実施いたしました。今年も商工会青年部という枠を越えて、町からも評価とともに補助金をいただきまして実施するつもりでおります。

この事業を行いまして特に感じたことは、子どもたちにこの地域、大石田で暮らすということに魅力を感じてもらいたいという思いを強くしたところです。

本日お聞きしたいのは、知事さんがお考えになります、子どもたちに伝えたい地域で暮らす魅力はどういったものがあるのか。また、それを引き出すために、先進事例として取り組んでいるものがあれば、ぜひお聞きしたいと思いました。

また、逆に知事さんがわれわれの団体等に求められる、地域でがんばることについて、こんなふうなことをやったらどうかというようなご提言だったり、県と大石田が協働で子どもたちに地域の魅力を伝えていく取組みをするには、どんなことがあるのかなど、お聞きできればと思います。

（知事）

子どもたちに職業体験していただいたり、魅力を伝えるというような活動をしていただきありがとうございます。

大石田で暮らす良さといったものはどういうことがあるのかということで、私よりも町長さんの方がその辺はお分かりなのではないかと思っております、私ばかりが答えて申し訳ないなと思いつながり聞いておりました。

県外に出てみると山形の良さというのが分かるといいますか、県外に出てみると山形の食べ物がどんなにおいしいかということを実感するんですよね。ここにいと分らない。当たり前だと思つていることが、実は素晴らしいことなんだということが、なかなか分らない。

それではどうすればよいのか、交流するというのも一つの方法かなと思つております。県外の子もたちと県内の子もたち、大人もそうですが、交流し合うことで自分たちの住んでいるところの良さが見えてくる。それは、国内外もそうだと思います。日本は素晴らしいところなんだ。しかも山形県は素晴らしい、大石田町は素晴らしいということが、いろいろなことを通して出てくるのではないかと思つております。

子どもを育てる親が、「ここはいいところだぞ。」と子どもに言わなければならない。「ここは雪が降つて不便だ」とか「農業をやつてもお金にならないから公務員になれ」とかですね、親がそんなことを言つたら、絶対、子どもは誇りを持たないですよ。どこで暮らしても、やはり自分のところぐらい良いところはないと私は思つています。

今日、次子を訪ねさせていただきましたが、私の生まれたところも山の中でしたが、本当に人間らしく暮らしていける場所だと思つています。やはり地域の資源を生かした産業振興ということは、一つの方向としてやつていかなければならないと思つております。

大石田町には、いろいろな資源がありますから、農林水産業の6次産業化ということも一つの方向だと思いますし、私が再生可能エネルギーと言つておりますのも、地域の資源、水や風、太陽光、木などを生かし、エネルギーを作つていくことができるわけですから、そういった地域経済の活性化と産業振興は技術革新も入ってきますので、そういったことにこれから取り組んでいきたいと思つております。

一言では言えないのですが、「ここ大石田町には何でもあるぞ」というようなことを、子どもたちに教つてあげることが大事だろうと思つてます。人と人との絆、つながりというものもそうです。

私は、子どもの頃、亡くなった母親が星空を眺めるのが好きな人で、よく星空を眺めてたんですが、特に冬の星空がきれいで、山形県は星空さえも宝だぞ、と思つておりました、観光資源のひとつだと思つております。

皆さんが当たり前だと思つてることが、実は都会の人にとってはないものだらけなんです。そういったものをもつと掘り起こす、再発見することは本当に大事だと思います。私は、山形県をいつも自慢してくるんですが、真ん中に出羽三山があつて1400年の歴史がありますし、そこを中心にして庄内、海がある。そして最上には巨木もある。村山、置賜と、非常にまとまりやすい地形なんだということを、都会のいろいろな方からも言われるんです。

そういったことも念頭においていただき、35市町村全部に温泉が湧いてる温泉王国なんて他県にはないわけですし、本当に素晴らしい財産がいっぱいありますので、子どもさんと一緒に再発見をしていただきながら、地域の宝探しみたいな感じで、愛情、誇りをたくさん伝えていただきたいと思つているところでございます。

本当に若い方々が、これからも自分たちの子どもたちの将来というようなことで、一緒になつて、

町と県が一緒になって、取り組んでいただけましたらありがたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【 5 地域の農産物を活用した加工品等の開発について 】

★私たちは30年ほど前に「新作物開発研究会」というものを発足させました。当時、私もまだ30代でした。地域の65歳以上のお年寄りから、いろいろな形で栽培のお手伝いをいただきながらやってまいりました。

あれから30年、私どもも65歳になりました。今度は第一線で栽培しようということで、10年ほど前から自然薯を栽培しております。

これまで10年間、村山総合支庁産業経済部や山形産業振興基金の補助金等も活用させていただきながら栽培を拡大してきたところです。

自然薯を素おろしにして、三角パックに入れて冷凍し、それを県内の調理人さんたちにテストしていただいたところ、厨房で使うのに非常に重宝だということで、テスト販売ではありますが、順調に推移しております。

生産規模も技術的なことも、県内はもちろん全国的にも引けを取らないようになってきているのではないかと自負しております。

知事さんも、トップセールスマンとして各方面でがんばってくださっており、感謝申し上げたいと思います。

私たちが7年ほど前から、観光も兼ねた農業体験型観光ということで、今年の春で7回目を迎えました冬期間の「雪中自然薯掘りツアー」を実施しました。今年も、仙台から約4～50名の方がおいでになり、雪の中で自然薯を掘り、自然薯料理を食べていただきました。皆さんが長靴や手袋など全て用意してきて、本当に楽しく掘っていただき、お風呂に入る時間が取れないほど楽しんでいただいたと思っています。

「四季祭山形」ということで、今は夏のすいかとメロンであり、今年も冬のイベントとしてがんばって行いますので、吉村知事にも参加していただければと思っています。

もう1点、松尾芭蕉と食材です。食材には、昔からのいわれや歴史的な背景など、例えば松尾芭蕉が食べて、元気に奥の細道の旅を続けられたとか、そんな物語があれば、もっと楽しい食材になるのかなと思っています。

大石田には6月1日に、「むけの朔日（ついたち）」ということで、その日にこの辺では山から自然薯を掘ってきて食べる習慣がありました。元禄2年のその頃に松尾芭蕉が来ているわけですので、多分食べたと思われます。

奥の細道は山形県内を縦走して約1ヵ月、その期間の松尾芭蕉に関わるドラマでもつくって、例えば最上町、尾花沢市、大石田町、そして新庄、庄内など1ヵ月間の、その地方の食材を網羅したキャンペーンができると思います。

私たちが、昨年、7月1日から1ヵ月間、旧暦6月1日「むけの朔日」に合わせて自然薯のキャンペーンを行いました。自然薯を食べると「一皮むけて丈夫になる」と言われております。そんな「むけの朔日」に芭蕉は大石田にいたのです。俳聖松尾芭蕉も曾良も自然薯を食べて、元気に旅立ったと思われます。これがキャンペーンの主旨です。そんなことで、これををドラマにしたらすごくお

もしろいかなと思います。一応、大きなホラを吹きました。よろしくお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。また先ほどは、雪室をご案内していただき、本当にありがとうございました。

次の子には雪蔵がありまして、1年中雪があるんですね。中に入ってみたのですが、寒かったですね。そこに米とそばとお酒、そして自然薯がありました。

野菜も寒いところにおくことで甘みが増すと聞いていますので、大石田町の特産にできるのではないかと思ったところです。

いろいろなことをお話いただきましたが、6次産業というのは、私は一つの大きな方向だと思っています。自然薯を生産して、それを付加価値をつけて販売していくというご紹介がありましたし、また観光とも結びつけている。しかも雪の中で掘ってもらった後に、あつたまりランドで温まってもらうというふうに、大石田ならではのすばらしいところが紹介されたと思っております。

お話の中に松尾芭蕉が出てきましたが、近代であれば斎藤茂吉という素晴らしい方がいらっしゃいまして、やはり大石田町に逗留されたことがありますよね。松尾芭蕉と斎藤茂吉の2人は、大石田町と深い関連がありますので、そういった取組みができますよね。

「俳句も絡めたらどうでしょうか」と、聞いていて思いましたが、大変、夢のあるお話だと思います。可能性が限りなく出てきます。

アイデアというのはゼロから作り出すのではなく、前からあった要素と要素を組み合わせる新しいことを考えるのがアイデアだと、アメリカの有名な方が言っておりますが、まさしくそのとおりだと思います。

ですから、いろいろなことを組み合わせ、知恵を出して地域を活性化していくことが大事ではないかなと思っています。

ところで、町長さん、自然薯を漬け物に活用していますか？

(町長)

はい、漬け物にしています。大変好評で少しずつ売上げが上がっています。

(知事)

おいしい自然薯の漬け物なんかも私はいけると思いますね。

(町長)

県からも補助をいただきまして、試作品を作って、去年あたりから徐々に売り出しております。

(知事)

そうですね。ぜひ、地元の物を使って、どんどん販路拡大をしていただき観光にも結びつけていくことが大事だと思います。

次年子をはじめ大石田町内のそば屋さんなどにも、仙台方面からたくさんの方々が来ていますよね。その方々に、もっと面的なネットワークのようなものをアピールすることなども、大事ではないかと思っておりますが、地域が元気になるようなことについて、村山総合支庁の産業経済部から付け加えていただけますか。

(村山総合支庁 産業経済部長)

農作物に係る6次産業化ということでございますが、農業者の方が加工、販売し観光に関連付ける、製造業の方が農業農産物を使っていろいろなことをするという、両方の面で支援事業を行っております。

例えば、お話がありました、今年3月の雪中の自然薯掘りツアーですが、これは、蔵王のかんじきトレッキングや雪中のイチゴ狩りなど、3日間の「雪国やまがたとことん満喫ツアー」ということで、実施させていただきましたが、このように各地の取組みを組み合わせることによって、地域がますますアピールできるようになると思いますので、皆さま方からアイデアをいただきながら、様々な事業に取り組んでまいりたいと思います。

【6 旧山形県立最北高等技術専門校寄宿舎について】

【7 今宿地区の流雪溝事業について】

★当地区で抱えております課題を2点ほどお話ししたいと思います。

第1点目は、山形県立最北高等技術専門校の寄宿舎についてでございます。

寄宿舎は、同校が廃止されると同時に役割が終わり、現在、建物だけが残っております。平成23年度までは町が県より委託を受けて管理をしておりましたが、現在、県の直接管理となっているようでございます。同建物については去年、強風のため、屋根のトタンがはがれる状況もありました。県では解体の方向ということをお聞きしておりますが、周囲に危険を及ぼさないようにぜひ、早急に予算化をし、解体していただき解体後、何かに使用するものか、その点をお伺いしたいと思います。

2点目ですが、今宿地区の流雪溝事業でございます。

大石田町では雪対策として流雪溝事業を順次展開しておりますが、今宿地区については、大石田地区と隴気川が分断されているため、水の取り水ができず、また県道の流雪溝の整備がないため、大石田地区でただ一つ流雪溝がない地区です。確かに水の取り水の確保には大きな問題がありますが、県及び国の協力、かつ密接な連携を取りながら、合併浄化槽の流水にも共用できる、県道の流雪溝設備の計画をお願いしたいと思います。

なお流雪溝が整備されない現在、毎朝、交通の確保、通勤、通学をはじめ、地域住民が安心して生活ができるように、丁寧な除雪をお願いしたいと思います。以上2点をよろしく願いいたします。

(知事)

はい大変ご苦労さまでございます。今日はありがとうございます。

第1点目の、旧山形県最北高等技術専門校の寄宿舎でございます。ここに来る前に、実は町長さ

んからご案内いただきまして、現場を見てまいりました。昨年の強風で屋根のトタンがはがれて、周囲に大変ご迷惑をおかけしたということで、本当に申し訳なかったと思っております。今年度から地区の意向もありまして、県で直接管理をすることになりました。昨年の12月にトタン屋根が破損して大変ご心配をおかけしましたが、6月に修理が完了したところでございます。

解体ということですが、直ちに行うのは難しいということで、しかも3,000万円近くの多額の費用がかかるという状況ではございます。

適切な維持をしながら、検討してまいります、ということにはなっているんですが、やはり雪は必ずまた降りますし、強風もいつまた吹くかも分からないというような状況の中で、本当にご迷惑をおかけして大変申し訳ないと思っております。戻りましてから、検討をはじめたいと思っております。

今すぐというのは難しいと思いますので、できるだけ速やかな時間に、具体的にまだいつということは、今日は申し上げられないので、本日伺いまして、できるだけ早くということで検討をはじめたいと思っております。よろしく願いいたします。

それから第2点目の今宿地区の流雪溝事業について。これも、町長さんからご案内いただきまして現場を見てまいりました。除排雪はすごく大事なことだと思っておりますし、流雪溝が有効な手段だということもお聞きをしております。県といたしましても必要な条件が整った地区から、流雪溝の整備を実施しているところでございます。

ご質問の一般県道、大石田土生田線の今宿地区ですが、流雪に必要な水の確保が大変難しい地区だと聞いております。また、土地改良区などの力添えをいただかなければならないというような事情もあるようでございまして、大石田町と引き続き検討を図っていきたいと思っております。

そのことについて総合支庁から補足説明をお願いします。

(村山総合支庁 建設部長)

これまで、大石田町の中では大石田地区、横山地区、現在実施中の岩ヶ袋地区と海谷地区について、消流雪用水導入事業という事業で実施しております。これは最上川の管理者である国が、最上川からのポンプアップにより必要な水の確保を担い、県は県道、町は町道の流雪溝の整備を行うといった、役割分担で行っているものでございます。

ただし、この事業は非常に厳しい採択要件があり、人口密度で、1haに40人以上お住まいになっていることが必要で、地区の人口を地区面積で割った値が40人以上にならなければならないということクリアしなければならないという条件がつきます。

平成22年度に県で今宿地区の調査をした際には、今宿地区の人口密度は21人/haあたりとなっており、基準の約半分という結果でございました。このため、消流雪用水導入事業が適用できず、先ほど知事から説明がありましたように、大変、水の確保が難しい地区ということは、こういう理由でございます。

ただ、流雪溝の整備につきましては、冬場が一番水が少なくなるということでございますので、一番水が少なくなる冬期間の水の確保、あるいは消流雪用水導入事業の採択要件、それから採択要件に合致しない今宿地区のような場合どのように対応するのか、といったようないろいろな課題がございます。また、大石田町のほかの地区でも流雪溝の要望もありますので、総合支庁の河川、道

路の担当及び大石田町と連携をとりながら、課題の解決策を検討するために、仮称でございますが、「流雪溝整備検討会議」というものを、7月中に立ち上げたいと思っております。そういうことで解決案を検討したいと思っておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いしたいと思います。

【8 大石田町鷹巣地区の信号機の撤去反対について】

★私からは、当地区にある信号機の継続設置に関するお願いです。当町は安心、安全で住みよい町づくりをスローガンに庄司町長を先頭に、住民一丸となり取り組んでいます。

このような時、先日、尾花沢警察署から当地区内に設置されている信号機を10月に撤去する旨の電話連絡がありました。地区としては寝耳に水で、驚きとともに困惑をしているところです。この信号機は県道と町道が交差する丁字路に設置されており、特に県道はカーブで見通しが悪い上に、急な勾配の坂道の間接点にあり、交通安全上問題があるから二十数年前設置され、今まで大きな事故もなく安心、安全な地域づくりに大きな役割を担ってきたと思っております。

当地区には町の誘致企業の東北アヲハタ株式会社があり、大型車両が頻繁に通ります。特に冬期間は道幅が狭くなり、車1台通るのがやっとの状況で、交差点の安全を目視で確認するのが困難な状況です。

信号機を撤去する理由として、学校統合により、通学路でなくなったことが大きな理由であると聞いております。確かに統合により、鷹巣小学校が廃校になりました。しかし、鷹巣から子どもがいなくなったわけではありません。子どもたちは今までと同じように、交差点を通り、バス停まで徒歩で通学しています。

子どもは地域の財産であり、宝です。子どもの安全を守り、子どもたちが安心して通学できる環境をつくってやるのが地域住民の務めであり、義務であると考えます。

このような事情をお察しいだき、安心、安全な地域づくりを進める上で、ぜひとも必要で、なくてはならない信号機と思っておりますので、吉村知事さんの思いやりのある取り計らいで、信号機が継続して設置されますよう鷹巣地区としてお願いです。

(知事)

日頃よりご苦労様でございます。

信号機を撤去しないで欲しいというご要望でした。県警本部が実施することでもございまして、県警本部では、交通量の変化や交通事故の発生状況などから、総合的に信号機の必要性を判断し、信号機の設置に努めていると伺っております。

今日お伺いした信号機ですが、鷹巣小学校が閉校したというような事情があるのかなと思うのですが、今後、地元説明会が予定されているというお話も聞いておりまして、すぐに撤去を決定しているというのではないように聞いておりますので、このあたり町長さんにお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(大石田町長)

私もその話は聞いておりませんでした。この前、鷹巣地区の座談会に行き初めて聞いたわけですが、大石田町で現在、信号機は3つあります。3つあるうちの大石田で二番目に出来た信号機です。

ので、当時、あるいは現在もですが、危険地域の中にあるからこそ、その当時に作ったのだらうと思います。

「鷹巣ってどごさあんのや」というと、「信号機あつどごだ」というように誇りを持った信号機です。子どもたちが山形など、そっちこっちに行く時に、おじいちゃんおばあちゃんもそうですが、「信号に気をつけて渡れよ」ということで、その信号機を手本にして勉強したという時代背景もあります。地域のシンボルでもあり、何とか残して欲しいということでございます。

(知事)

町長さんもこういったご意向でありますので、私としましても地元のご意向ということで、県警本部に伝えたいと思います。

(司会)

以上で事前に申し込みのあった方の発言は終わりました。本来ですと3時15分頃に大体の発言は終わる予定だったのですが、時間が2、3分しかないのですが、会場からお一方かお二方から本当に手短かにということで、ご発言をお願いしたいと思います。

【9 消費税増税反対について】

★いろいろ言う方もいるかもしれませんが、消費税がアップするとどうなるか。いかなる人でも皆商店に行って、例えば大根漬けを1本買ったら1,000円で消費税が50円のところ100円になる。

こんなささいなことだけではなく、建物や自動車、土地など全部上がる。だから、もっと老人たちの立場を考えて、消費税が上がったときに、どうなるかを考えて欲しいと思います。よろしく。

【10 駒籠地区の流雪溝の排雪の改善要望について】

★駒籠地区の冬場の流雪溝のことです。どうしても高齢者が多い地区のため、日中、若い方がおりません。日中に雪づまりが発生するのですが、そうしたときに70歳近い人が川に入って、人力で処理にあたってきましたが、幸いにしてこれまで事故が起きていません。これから事故が起きないとも限らない場所ですが、川の設備を充実していただきたいということと、水利権の問題で大変なものでしょうが、排雪溝の利用時間が短縮されています。

このため、日中働いて帰ってきても、雪を処理する時間がないということでクレームが出た年もありました。こうした点を何とかしていただければと思っています。

また、駒籠地区の遺跡発掘調査、本当にありがとうございます。

【11 減反地などにおけるエタノールの原料となるとうもろこしの栽培について】

★エタノールというのは、とうもろこしから作ると聞いておりますので、こうしたとうもろこしを減反地や休遊地などにつくるようにすれば、ガソリン価格も安定するのではないかと思います。

【12 町内産そばの水分規格について】

★蕎麦のことについて質問をしたいと思います。

「大石田町と蕎麦」ということで、町外から蕎麦を食べに来てくれる人たちが多くおります。そんな中、蕎麦栽培を行っている農家の方たちが、地元の蕎麦屋さんと農協を通して提携を結んで、地元の蕎麦屋さんに出荷する取組みを行っています。

県でも高品質の蕎麦を出荷してくださいということで、推進してると思うのですが、蕎麦の水分が16%以上でないと蕎麦屋さんでは使ってもらえないとなっております。大石田の蕎麦は水分が16%を超えるため農産物検査上は、規格外となっております。せっかく地産地消で大きくやってくる蕎麦に対して、地元の農家の蕎麦が入ってこなくなるため、もう少し県でも考えてもらえないかなと考えました。

【13 高齢者施設の待機者解消に向けた取組みについて】

★高齢者の問題を一つとりあげさせていただきます。

昨年、町で調査を行い、その中で「高齢者が要介護者になった場合どうするか」という設問に対し、約4割弱の人が「自宅で介護を受けたい」、3割以上の方が「介護保険の施設に入りたい」、2割の方が「その他の施設に入りたい」という回答をしています。

在宅が4割弱ではありましたが、約半数以上の高齢者が、施設で過ごしたいというのが希望なんです。

ところが、電話で役場に聞いたところ、現在、大石田町の施設利用の待機者の方が104名おるということで、全然減っていなかったとのこと。

それから、昨年の4月の新聞に、山形県全体で7,000人の待機者がいらっしゃるということで、その理由は、新聞ですから端的に書いておったんですが、「施設が足りない」ということが一つ。それから「人手が足りない」、三つ目が「介護保険の財源が足りない」ということでした。大石田ばかりではなく全県下そういう状況なんだと思いますが、介護保険につきましては、県では17.5%という大きな財政支出を行っている事業です。

これらの実態を踏まえて、これから対象者が増えるのか、あるいは減るのか、いろいろ考えておられると思うんですが、実状を踏まえての、県の対応なりがあればお伺いしたいと思います。

(司会)

ただいま5名の方が質問されました。内容が多岐に及んでおりますが、時間の関係もありますので、知事よりできれば簡潔なお考え、内容をお話し願いたいと思います。

(知事)

はい、どうも、皆さまさまざまな御意見、御要望賜りましてありがとうございました。

できる限り簡潔に、まずお一人目の方、ご苦労様でございます。

消費税がアップしたら大変だ、生活が大変になるという内容かと思えます。消費税については、今すぐというのは、私は慎重にしたほうが良いということをずっと申し上げております。景気判断ということもありまして、景気が少し上向いてからというような条項もありますので、そこは一定

の評価をしているのですが、実際に消費税がアップということになる時でも、低所得者層の方にしっかりと配慮すべきだということも申し上げておまして、それは方法がいくつかあるらしいので、どれをとるかということになるかと思えます。日常生活で食べ物を買うときには、軽減税率という言葉が使われておりますが、できるだけ今までよりも大変な状況にならないように、所得の低い方に対する配慮をしていただくようにこれからも国に言っていきたいと思っております。

それから、お二人目の方、ご苦労さまでございます。

流雪溝のお話がありました。日中、若い方がお勤めになっていて、若い方がいないときに雪づまりが起きたが、今まで大きな事故もなかったということで、本当に幸いなことだと思っております。ただ、雪下ろしの事故など若い方が留守の時に起こっているというケースがたくさんございますので、気をつけていただきたいと思えますし、川の排雪溝の整備をして欲しいということがありました。そのことについては、今すぐ答えができるかどうか分かりませんが、ちょっと検討させていただきます。

三つ目の御質問のエタノールのごことで、とうもろこしなどを減反地などで生産したら、ガソリン不足を解消できるのではないかとということで、それも一つの方法かなと思っておりますが、ただ、アメリカでとうもろこしを燃料として活用しているのですが、逆に食料の値段が上がってしまったなど弊害も起きているということもお聞きしておまして、とうもろこしは飼料用としても使われておりますので、これが高騰して今度は畜産農家が大変だとか、いろいろな波及がありますので、エタノールも大事な一つの方向ですが、総合的に勘案しながらできることをやっていかなければならないと思っております。

それから蕎麦に関する御質問がありました。

山形県は、蕎麦を生産しておりますが、「北海道や長野あたりに比べて品質が悪い」とはっきり言われております。それはやはりほ場の水分が多すぎて充実が不良となるということでありまして、その辺が非常に大きな課題でありまして、担当のほうでもそのことをこれから課題として取り組んでいくと聞いております。

それから五番目の御質問ですが、これは本当に大きな課題でありまして、本県は全国で5位の高齢県でございます。そういう意味では先進県として、しっかりとやっていかなければならないということでありまして、最近、医療に関する会合を何回かやっておりますが、国は在宅の方向に取り組んでいるようでありまして。

在宅でも、人員の問題があると思っておりますし、すぐに解決するような問題ではないと思っております。県で待機者が7,000名いるということでありまして、前倒しで施設の整備を進めておまして、多少減ってまいります。しかし、待機が解消するというわけではございません。しっかりとそこを見ながらですね、施設整備を進めなければいけないと思っております。介護保険となりますと、国がらみの大きな課題だと思っております。

これをやれば一度に解決するというような方策もなかなかないままでですね、施設はきちんと計画的に進めるということが一つありますし、また、在宅で暮らしていけるような方向ということで、医療と福祉、地域社会との連携ですね、そういうところを今、県は取り組んでいるところでございます。

こうした総合的な取組みということをやりながら、県民の皆さんが暮らしやすいような県をつ

くっしていきたいということを申し上げさせていただきたいと思います。大きな課題だと思っております。

以上